

處となしに出て行く。其の身の軽い事、夫ヤ宅の品物がたとへ一ツでも減つた所で、私さへ目をふさいで居たら事が済むが、他所さんの物に手をかけて、もし内から繩附を出す様な事が有つては、内の暖簾ぬれだにきづが附くで、あのお鍋を斷り言ふてんか。」

「ア、それはいきまへん、まだ是といふ現行ていこうを押へん内は。」

「なんとか宜い工夫がないぢやろうか。」

「そうだなア、こうつと、ウム宜い事がムります。明日は、御一統に芝居行でおます。その芝居行のお供をお鍋にさして、留守中にあれの所持品もつものを査しらべてもしも怪しい點が有りましたら、其れを機し會はに去いなしたら如何でございます。」

「フム、宜い所へ氣が附いた。そんならそう言ふ都合に仕とおくれ、他の者には内密でナ。頼んだで……今晚は寝とお呉れ。」

「左様ならお寝み。」

其晩は寝ましたが、明けの日、お鍋を芝居行のお供に付けて遣りました留守中。

「コレ、番頭。」

「オ、旦那だんなさん。」

「昨夜は甚い邪魔したなア、今用事は如何いふ都合や。」

「へエ、只今チヨツと手すきでおます。」

「そんなら、昨夜云ふてたお鍋の品物を、査しらべて見ようと思ふて居るのやが。」

「どうぞ、お査しらべ遊ばせ。」

「そして、お鍋の荷物は何處に有るのや。」

「二階でござります。」

「そんなら先にあつとくれ。」

「へイ、お先へ御免。」 トントンくくくく

「エー、是がお鍋の荷物で。」

「仲々立派な物やなア。」

「へエ、昔物でおますが構造は仲々頑丈に仕ておます。」

「コレ番頭どん、こら駄目おかんがな。錠かぎがおりて、錠かぎが掛つたア、開かへんがな。」

「旦那だんなさん、こんな物、錠かぎが無いから開きます。」

「ナニカ番頭どん、錠かぎのおりてあるのに錠かぎがなして開くのか。」

「なんでも無い事、御覽遊ばせ。(グワンくくく)それ開きました。」

「これ番頭どん、お前さんは、錠かぎを捻ねじり切る事が甚えらい上手やな。」